

	音楽研究会				部会記録	
日時	平成 30 年 10 月 31 日					
部会名	歌唱部会			主任	原 山 史 子 (三ツ境小)	
参加数	16 名	司会	太田 絢子 (菊名小)	記録	矢野 麻由子 (二俣川小)	
研究内容	研究部テーマ：子どもの意識の流れを生かし、音楽能力の高まりを目指した授業の在り方					
	歌唱部会テーマ：子どもが歌う喜びを感じながら、主体的に表現の高まりをめざしていく歌唱活動					
	研究仮説：魅力的な教材との出会いや学びを大切に、指導法を工夫し、子どもが歌う喜びを感じながら表現することができるような音楽科授業の在り方を考えていく。					
	1 基礎研究 提案者 太田 絢子 先生 (菊名小)					
	「J u m p !」 R U R I K O 作詞・作曲					
	・「ようこそ すてきな出会い 今日から仲間だね」と新学期に歌うのにちょうど良い内容					
	・前奏が素敵で何かが始まるワクワク感がある。前へ前へと流れるリズムが歌いやすい。					
	2 研究指導案に沿った模擬授業 指導者 波切 良太 先生 (川島小)					
	第 5 学年 学習の主題「全体の響きを聴いて歌おう」					
	中心教材「南風にのって」 若松 歆 作詞・作曲					
<授業者 (波切先生) より>						
・学習計画を子どもたちと立てていきたい。音の重なりを重点的に行って行きたい。						
・2つのグループに分かれて聴き合う。感想を述べ合う活動を入れ、二部合唱を仕上げていく。						
・重なる音をロングトーンでのばして響きを確認できるようにする。						
・パートに分かれて歌い、自分の音程を確認して歌うようにする。						
<模擬授業で部員から出た工夫ポイント>						
・めあてを出す前に「南風にのって」を歌う活動を入れた方が良い。(教師「今歌ってみて、もっとこうしたいという思いはありますか。気付いたことはありますか。」→「もっと重なりを感じたい。ハーモニーを感じたい。」という思いを子どもから出したい。						
歌詞「どこまでも」						
・歌詞の「どこまでも」の部分から3度の重なりが始まる。ただその音をのばすだけではなく、その前の部分(「とんでいくでしょう」から)があると子どもたちは歌いやすい。						
・音を取る時に手がかりを示してあげることが大切。						
音程の手がかり ソプラノ：とんでいくで<u>しょう</u> ⇒ <u>どこまでも</u> (レ) (レ) アルト：ピアノ「ソーファ♯ソッ<u>ラー</u>」 ⇒ <u>どこまでもー</u> (シ)						
歌詞「おいかけてみたいよね」						
・「おいかけてみたいよね」音程が低いため、地声になってしまう。何を意識したら良いか。						
→①大きな声で歌おうとしなくて良い。						
②「どこまでも」と同じ響きで歌うようにする。						

歌詞「みなみかぜ」

- ・主旋律・副旋律、それぞれ歌って音程を確認する。
- ・「みなみかぜ」合わせて合唱する。

- ・グループに分かれて互いの表現を聴き合うとき、今日の課題について伝え合うようにする。
- ・バランス・音程・音色（声質）について子どもから意見が出てくることが予想される。特にバランスについて取り上げたい。「音量のことなのかな?」「声の大きさのことなのかな?」教師が子どもの意見に対して整理してあげる必要がある。
- ・レベルアップ方法（本時の課題となる部分）は前時までに出しておきたい。
- ・聴き合う際、今日やった部分「あの海の～」ところからで良いのでは。

<講師の先生 宮崎里子先生より>

- ・本時目標・めあて・評価が合うようにしたい。
- ・「南風にのって」の特徴→1拍目の四分休符の扱いが大切。一時でよくアナリーゼすること。教師の伴奏も四分休符をよく感じることで、子どもが音を取りやすくなり歌いやすくなる。前につんのめりすぎないこと。
- ・「どうして最後に3度ではなく6度になっているのかな?」子どもたちが曲の最後を味わえるようにしたい。